

利用者アンケート調査結果

ピーク時における大台ヶ原への来訪者に対し、大台ヶ原の利用のあり方に関するアンケート調査を実施した。

<調査概要>

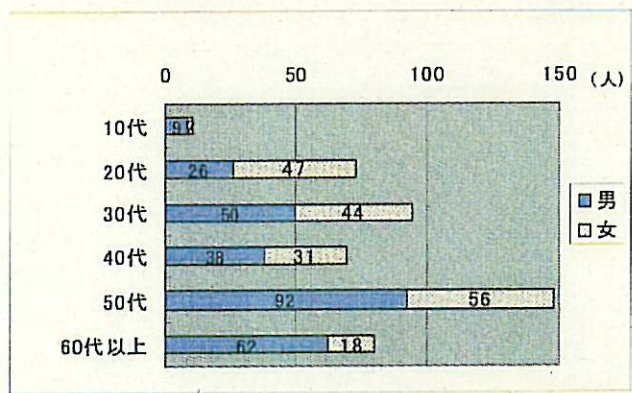
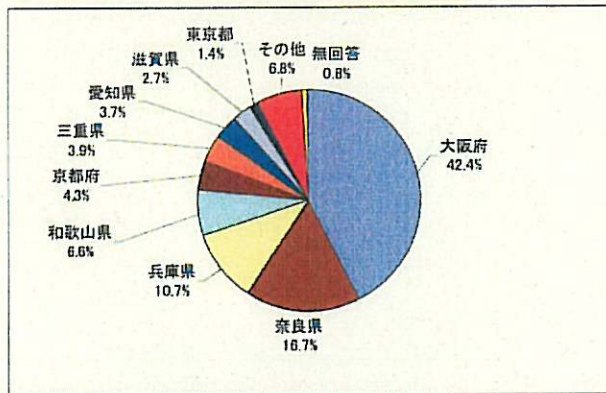
- 日 時：8月16日(土)、17日(日)、10月11日(土)、10月18日(土)
- 場 所：駐車場周辺、宿泊施設等
- 形 態：調査シートを用いた対面ヒアリング形式、宿泊施設等への留置き形式
- 有効票数：計 486 票

(分析は全4日のデータをもって総合的に行ったが、一部の項目については、10月18日の調査結果を混雑期のデータとして個別に分析)

<集計結果概要>

①基本属性(居住地、年齢、性別)

大阪府、奈良県、兵庫県、和歌山県、京都府、三重県、愛知県、滋賀県などの近畿圏あるいは近隣の都道府県からの来訪者が90%前後を占める。特に大阪府からの来訪者が30~40%を占め、最も多い。年齢は50代が最も多い。性別では男性が60%弱である。



居住地

年齢・性別

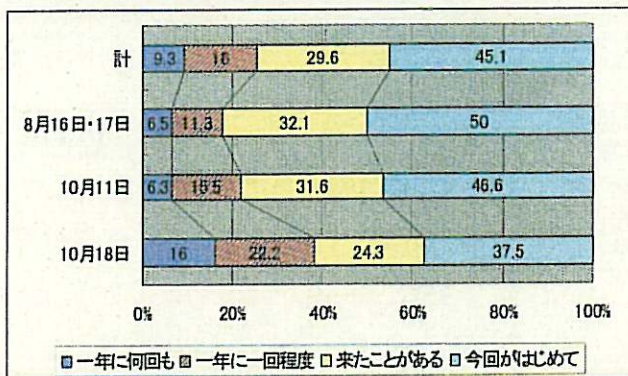
②来訪状況(来訪頻度、宿泊状況、グループ構成、交通手段)

来訪頻度を見ると、リピーターが60%を超え、そのうち年に何回も訪れる人が16%ある。

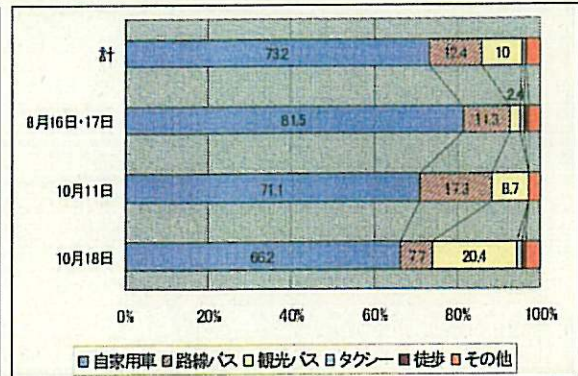
70%以上が日帰りの来訪者であるが、宿泊者の宿泊先で最も多いのは、山上駐車場に隣接する大台荘であり全体の10%弱となっている。

来訪者のグループ構成は家族あるいは友人などのグループが85%を超え、それ以外では旅行会社のツアー、ひとり、などである。

来訪者は自家用車利用が70%以上で、路線バスが10%強である。

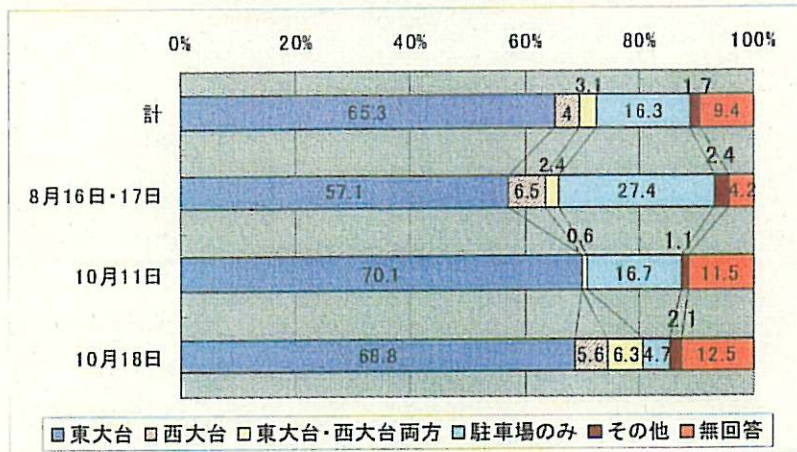


来訪頻度



交通手段

### ③利用ルート（出発地点・終着地点、利用ルート）

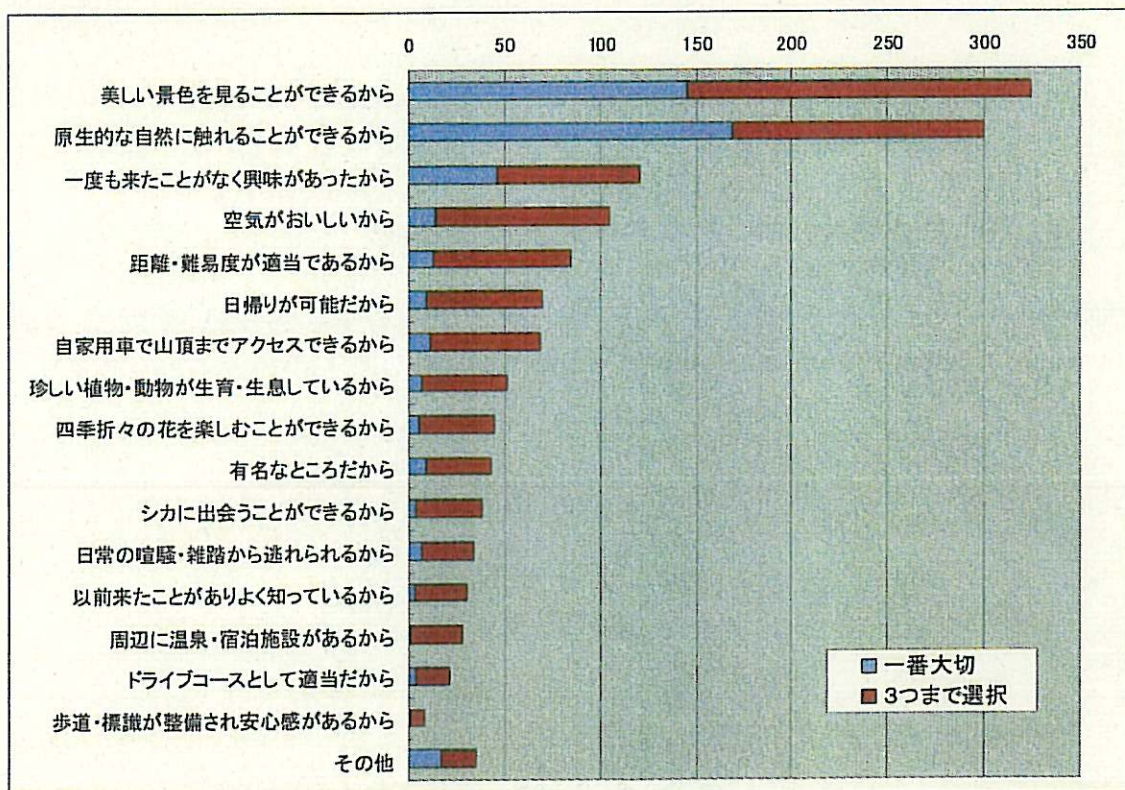


出発地点、終着地点はともに98%以上の方が駐車場を挙げている。また、周回ルートを歩いた人の大多数は東大台のみの利用であり、西大台を歩いた人は全体の10%弱である。

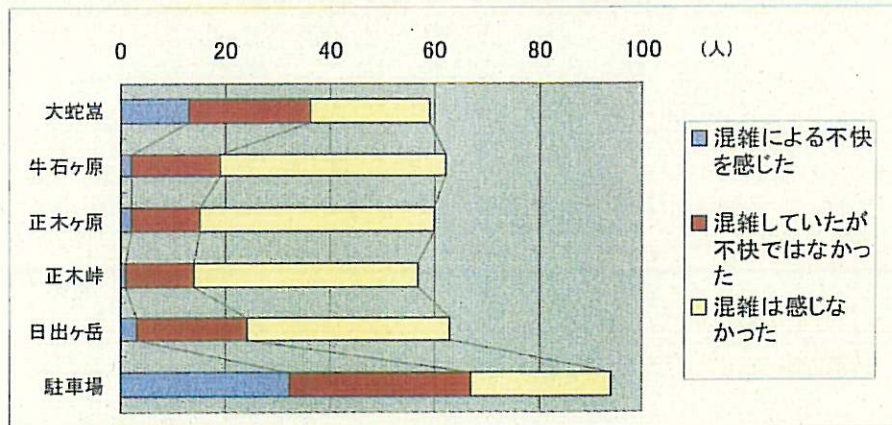
### ④来訪動機

大台ヶ原への来訪動機を3つまで選択してもらくと、「美しい景色を見ることができる」「原生的な自然に触れることができる」が多く、続いて「一度も来た事がなく興味があった」「空気がおいしい」「歩くコースの距離・難易度が適当である」「日帰りが可能」「自家用車でアクセスできる」などが挙げられている。

また、そのうち最も重要なものとなると、「原生的な自然に触れることができる」「美しい景色を見ることができる」の2つの占める割合が非常に多い。続いて「一度も来たことがなく興味があった」が挙げられている。



⑤混雑感について（10月18日のデータのみ分析）（混雑感と混雑による不快感の有無、その理由）

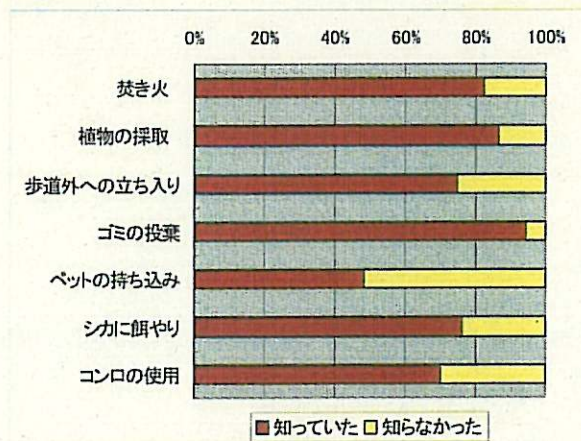


混雑による不快感を感じた場所として最も多く挙げられたのは駐車場であった。次に多いのは大蛇窟であり、回答者の半数以上が混雑感を感じている。

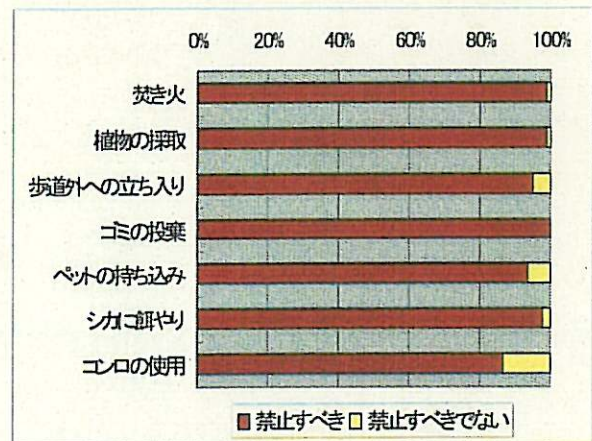
⑥利用マナー（禁止行為の認識、禁止する必要性の認識、禁止行為の目撃、掲示板の効果、啓発手法）

大台ヶ原で禁止されている行為のうち「ゴミの投棄」や「植物の採取」については禁止行為であるという認識が比較的高いが、「ペットの持ち込み」が禁止されていることについては、認知度が50%に満たなかった。一方、禁止する必要性の有無については、「コンロの使用」で10%以上の人々が「禁止すべきでない」と答えた以外はすべての項目で90%以上の人々が「禁止すべきである」と回答した。

（※「禁止行為の認識」のうち「焚き火」、「コンロの使用」についての設問と、「禁止行為の必要性」の設問は10月調査のみ実施）



禁止行為の認識



禁止することの是非

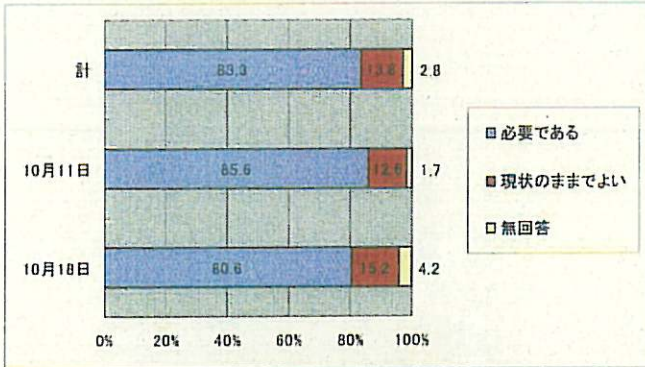
天候が良好であった10月18日には多くの人々が禁止行為を目撃しており、「ペットの持ち込み」は71%、「歩道外への立ち入り」は62%、「コンロの使用」は35%の人々が目撃している。

周回ルートに設置されている各種掲示板の効果については、「効果があった」「少し効果があった」と答える人の割合が非常に高い。

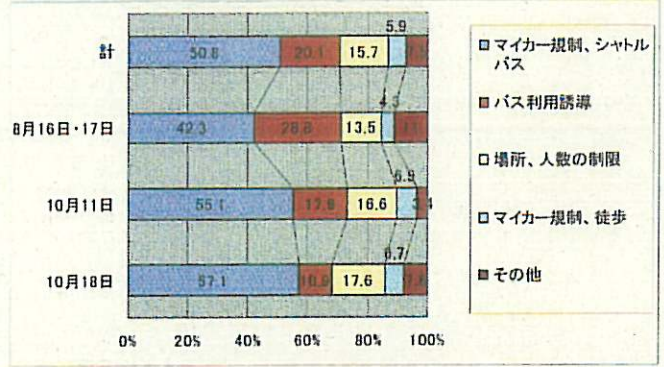
望ましい啓発手法については「標識・案内板による情報提供」を挙げた人が最も多く、次いで「レンジャーやボランティアの巡回」「ビジターセンターでの展示やパンフレットによる情報提供の充実」が多かった。

⑦利用適正化対策（規制の必要性和内容、規制時の行動予測）

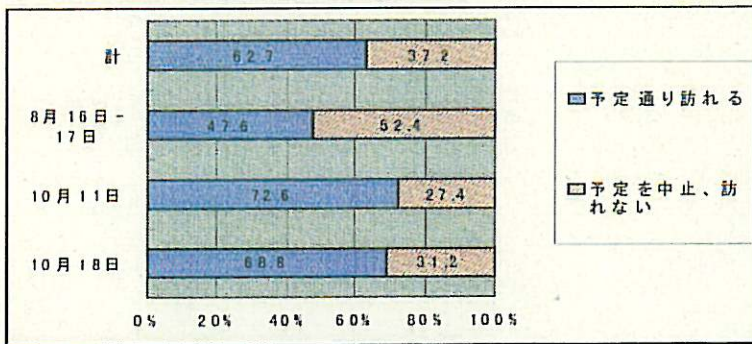
ピーク時の過剰利用による交通問題については、約83%が何らかの規制の必要性を感じている。規制内容としては、「マイカー規制と麓からのシャトルバス運行」が約51%と半数以上を占め、次いで「バス利用誘導」が20%、「入山人数制限や利用制限区域を定める」が16%であった。



交通規制の必要性認識

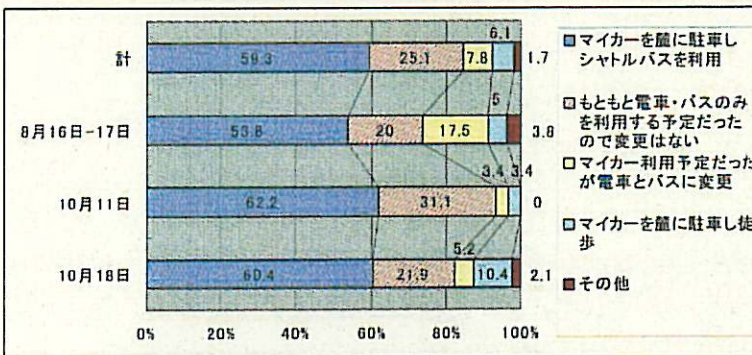


必要な規制の内容



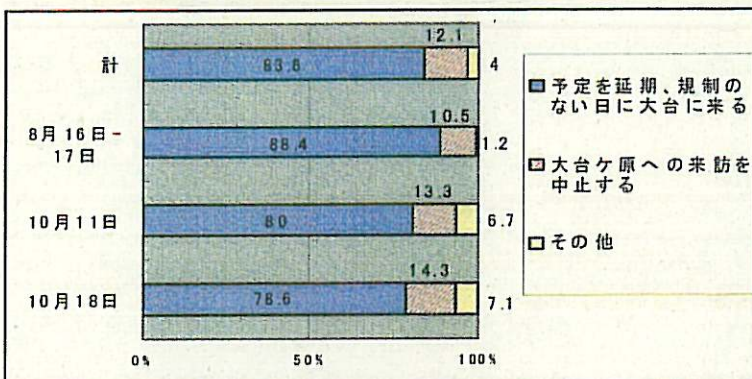
規制時の行動予測

来訪予定日にマイカー規制や利用者制限が行われている場合は、約63%の人が「予定通り訪れる」と回答している。



規制時に来訪する場合の利用交通手段

規制時の来訪手段としては、60%近くが「マイカーとシャトルバス」の組み合わせを選択した。「もともと電車・バス利用であったため変化がない」「マイカーを電車・バスに変更」を合わせると公共交通を利用して訪れる人が30%を超える。



規制時に計画を変更する場合の変更内容

また、「予定を中止・変更する」と回答した人の84%が「予定のない日に大台を訪れる」と答えており、規制により来訪者数のピークカットと分散が起ると予想される。